

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990200046		
法人名	株式会社アップワード		
事業所名	大和高田グループホームまほろば		
所在地	奈良県大和高田市曾大根2丁目9番18号		
自己評価作成日	平成29年7月1日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2990200046-008&PrefCd=29&Versi
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3F
訪問調査日	平成29年7月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所より4年が経ち、ご入居者様も状態の変化と共に、車椅子を必要とされる方も増えました。車椅子であっても、今までのように、外出や外食の機会を大切にしたいと思い、少人数での個別外出を企画しています。又、個々の想い・願いを尊重し、楽しみを作れるように希望をお聞きし、図書館へ行く、大衆演劇を観に行く、外食会では食べたいものを自分で選んで食べるなど、ご家族様のご協力のもと、行っています。いつまでも変わらずアットホームな雰囲気、活き活きと笑って今までの生活を継続できるように支援しています。これからは、もっと地域の方々との交流も増やしなが、楽しく暮らせるホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、バイパス道路の側道に面しており、建物は鉄筋2階建てである。入口が透明なガラス戸で中の玄関ホールが見渡せて、訪問しやすい。料理は、台所で全て手作りされている。利用者や職員と一緒に食事を準備し、会話を楽しみながら同じものを食べて、とても家庭的な雰囲気がある。お風呂は毎日準備し、利用者の要望に合わせて夕方の時間帯で入ることができる。「住み慣れた地域の安心できる場所で、自分らしく笑って過ごせるお家をめざす」という理念を掲げ、明るく家庭的で、職員や利用者の笑顔が絶えない事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・事務所・スタッフルームに理念を掲げ、毎月の会議において理念の話をする事で共有し、住み慣れた地域の安心できる場所になるように日々取り組んでいます。	「住み慣れた地域の安心できる場所で、自分らしく笑って過ごせるお家をめざす」という理念のもと、管理者と職員は理念を実現できるよう日々取り組んでいる。事業所内は明るく家庭的な雰囲気、職員や利用者の笑顔が絶えない。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方の定期的な訪問や近隣の祭りへの参加、秋には地域の子供たちのだんじりの休憩場所として提供し、交流を図っています。	自治会に加入し、子供会のだんじり曳行の休憩場所として事業所の駐車場を提供しており、利用者も楽しみにしている。地域ボランティアの定期的訪問を受け入れている。今後は、事業所での認知症カフェの開設に取り組み、さらなる交流を図る予定である。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設のお話や、認知症という病気について、民生委員さんを通じて、地域の方へのご理解を深めています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営状況や行事・活動・入居者様の生活状況の報告を行い意見をいただいています。	運営推進会議は、市の担当職員、地域包括支援センター職員、民生委員が参加し、2ヶ月に1回開催している。会議では事業報告や事故報告などを行い、アドバイスをもらっている。災害時の地域との連携も話し合っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、地域包括支援センターの方、介護保険課、保護課の方に参加していただき、報告・情報交換を行っています。	運営推進会議に、市の介護保険課の職員が毎回参加しており、密に情報交換を行っている。また、生活保護を受けている利用者がおられ、保護課と密に連携して支援している。市主催の会議や研修会にも積極的に参加している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束虐待防止委員会によるアンケートや内部研修などを通し、職員の意識づけを行っています。	玄関は、昼間施錠されておらず、開放的である。身体拘束については内部研修を行って、職員間で確認している。向精神薬の使用を少なくする取り組みを行っている。危険防止のため家族と相談して、車いすからのずり落ち防止の安全ベルト使用や、ベッドからの転落防止の4点柵を設置している方がいる。	利用者の安全を守るためにやむを得ず安全ベルトや4点ベッド柵を使用するときは、一時的とし、常態化しないようそれに代わる介護方法の模索が今後も望まれる。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束虐待防止委員会による研修を通し、職員間で周知理解を深めています。管理者は日常的に職員とのコミュニケーションを図り、フロアで過ごす時間を持ち、状況の把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、会議などで適宜話をして理解に努めています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定等は家族様に説明を行い、質問にもお答えしご理解頂ける様努めています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、お支払い時、ケアプランの更新等に、ご家族様が話しやすい雰囲気でご意見ご要望をお聞きしています。	家族は、面会時だけでなく、利用料などの支払いに来る家族が多く、その時に積極的に意見や要望を聴いている。事業所がとても家庭的な雰囲気、利用者や家族の要望や意見を出しやすい雰囲気がある。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務の中で、話す機会を持ち、意見や要望などを聞き、対応している。サービス向上委員会においても、アンケートをとるなどして、業務改善などを考えています。	管理者は共に行う業務の中で、職員の意見や提案を聴いている。毎日の申し送りや連絡ノートでも、職員は要望を伝えているが、大切なことは月1回の職員会議で話し合っている。職員の提案で、記録様式をより使いやすく改良した例がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員の勤務状況・職員個々の実績や努力を把握し働きやすい職場環境が整備できるように努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部評価に参加し、職員の知識や技術の向上に繋がるように努めています。内部でも研修を行っています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などに参加し、交流する機会を得て、意見や情報の交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活環境が変わることによる心身の負担を最低限に抑えられるように、ご入居前に面談に伺いお話し、安心していただけるように努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご見学・ご相談の際には、話しやすい雰囲気作りに努めご家族様の思い、不安など受け止め、安心していただけるように努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでの生活上の希望をお聞きしながら、ケアの方向性を話し、状況に応じて必要なサービスの情報提供を行っています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の意向・ペースにあわせ、自分らしく生活の継続が行えるように支援しています。共に日常生活を過ごし、関係を築いていきます。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間にこだわらず、ご来訪していただきやすい雰囲気づくりを心掛け、ご本人の日々の様子など話せる、アットホームな関係づくりをしています。行事にも参加いただくなど、一緒に楽しい時間を過ごせるように努めています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様以外の面会者にも来訪しやすい雰囲気づくりを心掛けています。	事業所は訪問しやすい雰囲気があり、家族だけでなく、友人や近所の方の面会が多い。利用者個々の要望に沿って、馴染みの場所へ外出支援を行って関係継続に勤めている。正月やお盆などに家に外泊する方もいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の人間関係も様々ですが、職員が仲介役として良好な人間関係が築けるように努めています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、再入居のご希望されることもあり、居室の空き状況など声掛けさせていただくなど、変わらない関係を続けるよう努めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の希望や思いを日々の会話を通してお聞きしたり、気づけるように努め、個々の楽しめることをプランに入れ、ご家族様とも相談し考えています。	職員は利用者と日々家族のように会話をして、行きたいところや食べたいものなど、思いや意向の把握に努めている。面会に来られる家族が多く、職員は家族の思いや要望などを聴いている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からご本人・ご家族様・各サービス事業所から情報収集し、職員間で情報共有に努めています。入居後も、ご本人・ご家族様との会話を通じて情報収集しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケア記録から状態の把握に努め、定期的にケアカンファレンスを行い確認しています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとにモニタリング・ケアカンファレンスを行い、ご家族様・職員・かかりつけ医などと意見交換し、計画に反映するように努めています。	利用者や家族の思いを踏まえ、職員で話し合っ介護計画がつくられている。身体面のケアだけでなく、利用者の楽しみごとを実現するプランがつけられている。毎日モニタリング記録を残し、3ヶ月ごとに介護計画を更新している。	できれば家族との定期的なカンファレンスの機会を設け、じっくり座って会話をして家族の思いを汲み取り、介護計画に活かすことができればさらによいと思われる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを作成し日々の様子やケアの実践等を記録し、職員間での共有を図り3ヶ月ごとの介護計画見直しを行っています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に個別のサービスが行えるように管理者・計画作成担当者・フロー・職員との連携を図り努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日近隣スーパーへ車で買い物に出かけたり、近隣のお店に外出しに出かけるなどしています。ボランティアの方に来ていただき地域の交流を楽しんでいます。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週往診があり、隔週で1階2階と診てもらっている。ご家族様の付き添いで、以前からのかかりつけ医へ受診することもあります。緊急時には、職員が付き添い受診することもあります。	内科の提携医が毎週訪問し、利用者はユニットごとに隔週で訪問診療を受けている。歯科医が訪問し、口腔ケアを行っている。また、整形外科や心療内科へは主に家族が付き添い、通院している方もいる。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師を配置しています。日々の健康管理・異常の早期発見に努めています。職員への医療知識の相談や研修なども行っています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と連携を図り、面会を重ね、入居者様が安心して療養できるように努めています。往診医も含め、退院後のホームでの生活を検討しています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階での終末期ケアについてご家族様のご意向をお聞きし、「看取りに関する指針」を説明し、同意書を作成し、往診医・看護師・ご家族様・職員が連携をとれるよう努めています。	利用開始時に看取りに関する事業所の指針を説明し、書面で意向の確認を行なっている。実際に終末期になったときには、再度家族に意思の確認を行なって、提携医と連携して対応している。事業所内での看取りの事例もある。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会などで職員が周知できる様その都度おこなっています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練をおこなっています。1回は、消防署の方より来ていただき、立会いのもおこなっています。災害発生時には地域住民の協力を要請し、地域住民の避難所として受け入れるなど連携を図ります。	緊急時マニュアルが作られ、スプリンクラーや自動通報装置も設置されている。年2回避難訓練を実施し、内1回は消防署の立会いのもと実施し、アドバイスを受けている。水や食料の備蓄も行い、地域の要介護者の避難場所としての役割も担っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に行う会議にて職員が意識を持つ様に努めています。個々の意思を優先し、無理強いすることのないケアを支援しています。	利用者個々の生活歴や性格を把握し、声かけの方法も工夫している。利用者一人ひとりの暮らし方の希望を尊重し、意向に沿った対応を行なっている。特に外出支援では、図書館に行く、買い物に出かける等、個々の要望に沿って対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に会話を持つようにし、ご本人の思いや、要望を確認できるように努めています。解りやすく、二択方式で質問するなど、自己決定しやすいようにしています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないように個々のペースにあわせ対応するように心がけています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月訪問理美容に来て頂き、個人の希望に沿ってお願いしています。今までの生活を継続する為、毛染めやパーマなども行っています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者様のご要望を聞いたり、個々に合わせた調理無の様工夫しています。ホームの畑でできた野菜と一緒に収穫し、メニューを変更して、楽しみながら食事をしています。食事の準備・配膳・後片付けなども一緒にしています。	料理は、利用者の要望を踏まえてメニューを考え、買い物をして、全て職員の手作りである。事業所横にある畑でとれた野菜も使われている。利用者と職員と一緒に準備をし、会話を楽しみながら一緒に食べて、とても家庭的な雰囲気がある。外食に出かけることもある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりに合わせた量を提供し、食事量・水分量の記録をつけて把握するようにしています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、付き添い又は介助を行っています。必要な時は、歯科へ受診したり、往診に来て頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、定時誘導でなく声かけを行い、排泄の失敗を減らすようにし、布パンツの使用を目標として支援しています。	トイレが4ヶ所あり、片方には男性専用便器も設置されている。職員は利用者個々の排泄パターンを把握し、タイミング良い声かけや誘導を心がけている。利用者になるべく布パンツで普段過ごせるよう取り組んでいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便を記録して把握するようにして、水分補給を促すなどし、便秘の改善に努めています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に毎日、夕方から入浴して頂いています。個々の体調や気分に合わせて、個別にゆっくり入浴していただいています。	毎日お風呂を準備し、利用者の要望に合わせて15時から入ることができるよう支援している。前日入浴していない人を優先しているが、毎日入浴することもできる。入浴剤や袖子を入れて楽しむこともある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて休憩して頂き、就寝時間も個々に合わせて入眠して頂いています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬情報を綴り、職員が周知し、内容の把握ができるように努めています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活リズムを整え、個々に合った役割を職員と一緒にしています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	順番に毎日、スーパーへ買い物に出かけたり、お花見・遠足・外食などに出かけています。個々の要望を聞き、大衆演劇を観に行くこともあります。施設で作っている畑を見るなど、外に出て楽しむ時間を作っています。	「一人ひとりの想いを尊重します」という理念のもと、個々の希望に沿って交代で行きたいところに外出支援を行っている。散歩や買い物他に、お花見や外食、大衆演劇を見に行くことがあり、利用者の楽しみになっている。定期的に図書館に本を借りに行く方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご家族様に管理をさせて頂いてます。ホームでは小口をお預かりし外出の際は、職員が見守り、支払い等も行って頂いたりします。ご希望により少額ですが、所持されている方もおられます。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、ホームの電話を使用して頂くこともあります。ご家族様の電話を取り次いだり、郵便の受け取りなども支援しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・リビングにソファやテレビを置き、入居者様同士の距離感にも配慮し、ゆっくりとくつろげる雰囲気而努力しています。壁に、季節感を感じられる飾りを月替わりで作ります。	玄関は昼間施錠されておらず、玄関ドアが透明ガラスで、内部の玄関ホールが見えて、訪問しやすい。居間にはゆったりしたテーブルやソファが置かれ、西側に大きな窓から、沈む夕日を眺めることができる。トイレが各所に配置され、利用しやすい。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで過ごす時間の中で、気の合った方同士で席の配置を決めたり、ソファを置き、配慮しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室に、エアコン・チェスト・ベット・布団・洗面台が備えてあり、個々に使い慣れた家具やソファなど持ち込まれ置かれています。季節ごとの衣類の入れ替えも、職員も一緒に手伝っています。	居室の入口に、年初めて願いごとを書いた羽子板が飾られている。居室内には、洗面台があり、ベッドとチェストが設置されている。利用者は、テーブルやソファ、テレビなどを置いて、居心地良く過ごせる工夫がなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活リハビリを中心に、それぞれが出来る事を行って頂き、自立支援をしています。廊下には手すりの配置、居室には表札をあげ、わかりやすくしています。		